

なぜ、巨大な水道施設に？

(=ダムを水源とする「畔地浄水場の集中配水方式」に変わった背景)

◆大災害

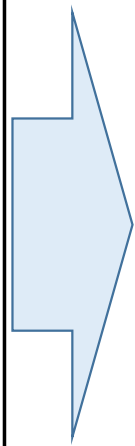
- ・ S 44年8月の大洪水
(死者4人、被災家屋3,300戸)

◆高度成長

- ・ 関越道、上越新幹線の整備
- ・ 観光客の増、工場誘致の推進

◆環境改善

- ・ トイレの水洗化
(下水道事業の推進)
- ・ 地盤沈下の拡大
(六日町中心部)



1、災害復旧、治水対策 (→ダム建設)

2、水需要拡大への水量確保

(→ダム水を水源へ)

★【ダム建設と水源確保】

- ・ **ダム事業費：1,100億円**、国直轄事業
(S 50調査開始、S 52建設着手、H4完了)

- ・ 多目的なダム機能：治水 94%、電力 1.1%、水道4.9%
→50億円で、90万m3の水源確保 (=市内の、1ヶ月分の使用量)

★【水道の広域化事業へ】 = 「畔地浄水場」からの集中配水方式へ

- ・ 旧3町で、用水供給事業を行う、広域水道企業団を設立 S 51

- ・ **広域化事業費：340億円** (内訳 畔地浄水場 130億円
送水管、配水池 160 〃
ダム建設負担金 50億円)

巨額な企業債（借入金）残高は、いくらある？

【“借金”からスタート！！

建設した施設は、数十年と長く使い続けられるため、長い間、数世代で、返済を行うこととなった】

◆当時の、“水道広域化の事業費

(=ダム水源化) **340億円**”

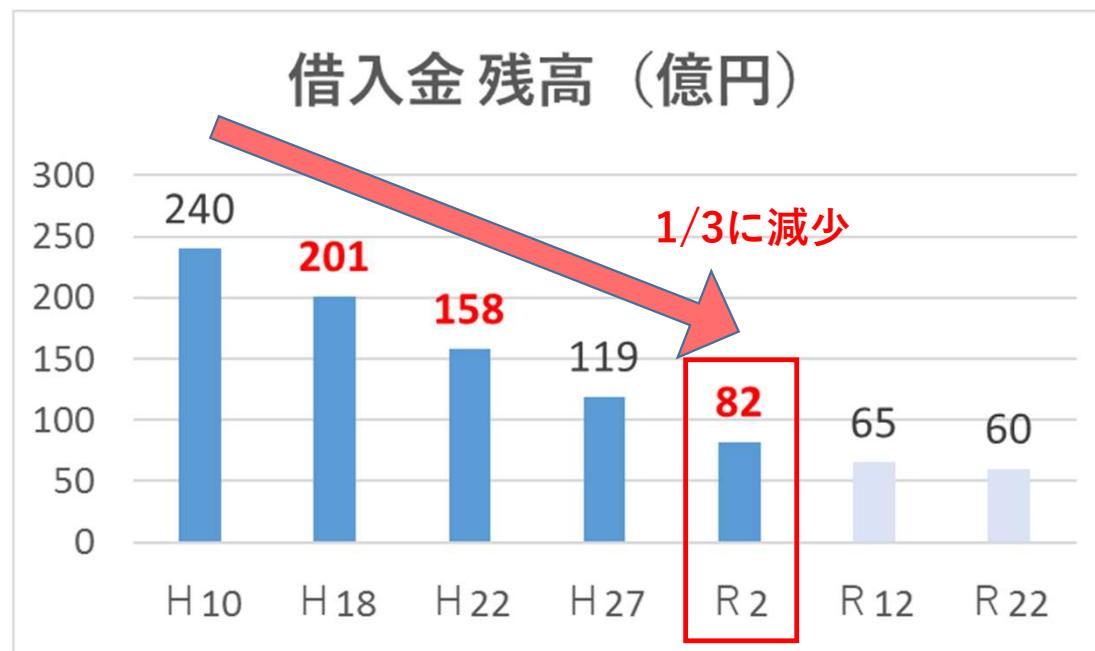
| | | | |
|-------|-------|-------|-----|
| 財源内訳： | 国補助金 | 100億円 | |
| | 借入金 | 160 | 〃 ① |
| | 旧3町出資 | 80 | 〃 ② |



◆企業債（借入金）の総額 = ① + ②

240億円

※畔地浄水場の完成：平成10年度当時



【残高82億円のイメージ】

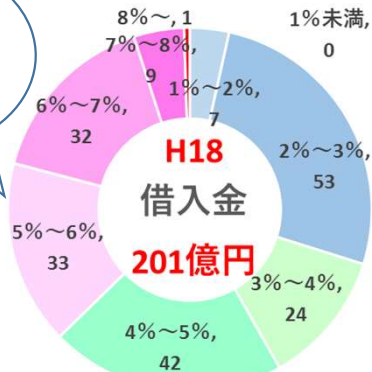
料金収入 14億円/年なので、6年分の借入金を抱えている。【類似団体の平均は、3年分】

企業債（借入金）の金利や金額は？

【高い金利があるのでは・・・】

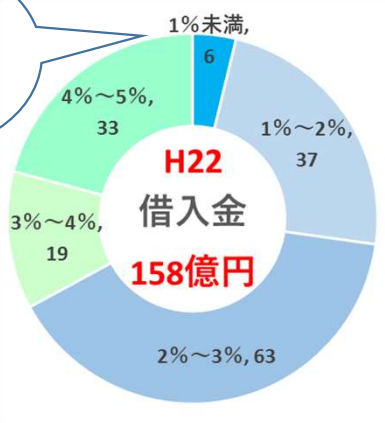
金利別の借入金

5%超が
75億円



繰上げ返済

5%超を
「なし」
へ



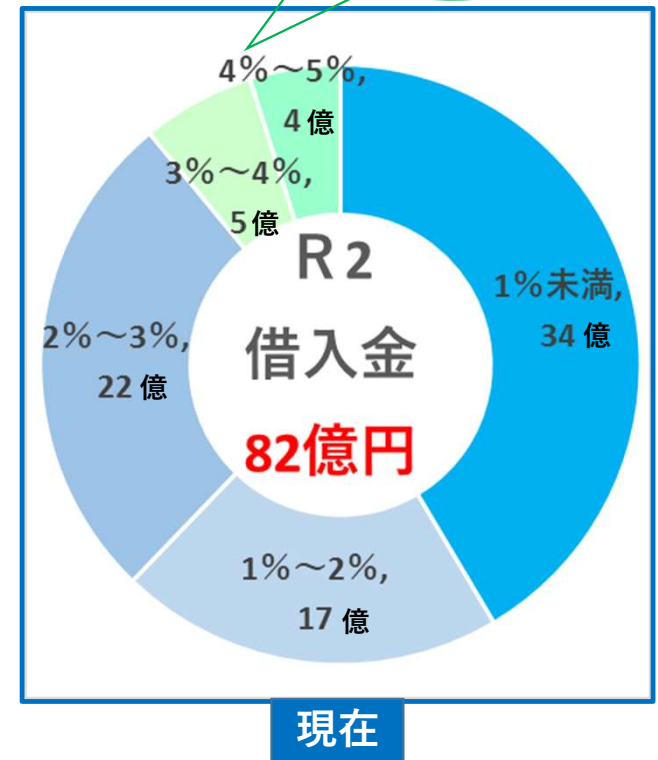
繰上げ返済の効果 (=返済利息の軽減)

H19~H21の3年間で、『公的資金の補償金免除 繰上げ償還（臨時的特例）』を活用し、**高い利息の借入金を、低金利の借入金へ、借換え**を行った。

【全国の水道事業体で、実施された】

- ◆件数：85件（利息5%超のもの）
- 繰上返済元金の総額：64.9億円
- 利息軽減の総額：15.7億円**

利息3%超
9億円の返済は、R7で
完了予定



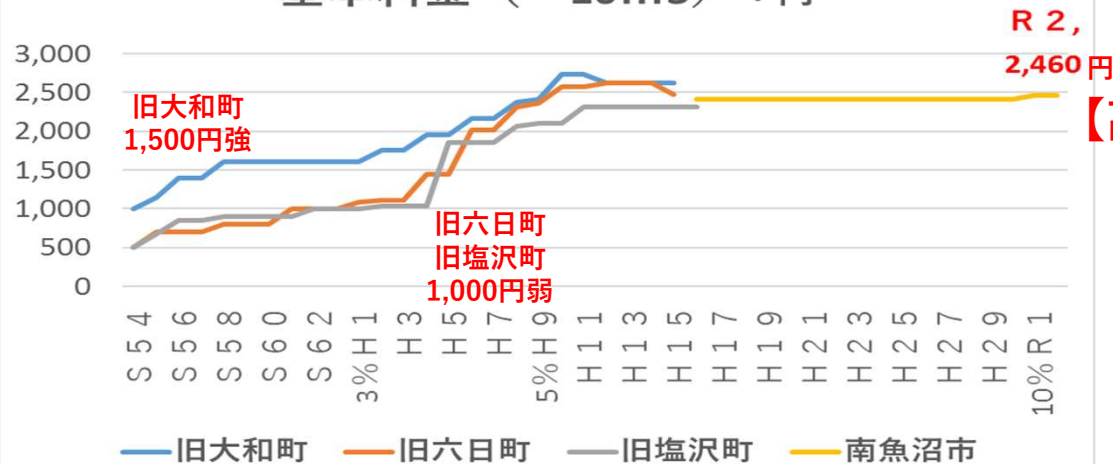
高い水道料金は、いつから？

◆以前の水道は、井戸水や湧き水を塩素で消毒する程度で、旧3町ともに、水道料金は安かった（旧大和町は、少し高かった模様）

◆ダム水源による広域化事業（「畔地浄水場」からの集中配水方式）により、旧3町ともに、平成元年から10年間を要し、料金値上げに着手し、今の料金水準へ

◆平成17年 南魚沼市と旧塩沢町の合併、広域水道企業団の統合、
これ以降 料金改定はなし（消費税改正は除く【H26据置き、H30.10月値上げ】）

基本料金（～10m³）：円



【高い料金の時限的な救済措置（料金減免）の経過】

- ・ H21 基本料金 1/2 5ヶ月間
- ◎ H24.8月～ 福祉減免（65才以上非課税世帯）実施中
- ・ H26 消費税8%へ 据置き（原価の圧縮）
- ・ H30.4月～ 基本料金 △215 - 3年間
- ・ R2 コロナ基本料金 1/2 3ヶ月間